

平成28年度「災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成」 助成先選考結果のご報告

第2回目となります2016年度「災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成」につきまして、助成先が決定いたしましたので、ご報告いたします

助成先団体及び対象となる事業（50音順）

助成先	申請事業名	助成金額
特定非営利活動法人 OurPlanet-TV	VRで遺す子どもたちの記憶と未来 ～小高中学に寄り添う映像記録の蓄積と作品化～	1,800,000
特定非営利活動法人 アスイク	宮城県多賀城市における、食と学習をととした居場所・地域づくり	2,000,000
yell！チャイルドマインダー熊本の会	子育て応援Room	1,501,000
特定非営利活動法人 キッズドア	仙台市の困窮家庭の中高生を対象とした無料学習会と 復興人材育成のためのプロジェクト学習の実施	2,000,000
一般社団法人 キッズ・メディア・ステーション	石巻日日こども新聞 東日本大震災を経験した子どもたちによる情報発信活動	1,280,000
一般社団法人 子どものエンパワメントいわて	気仙地区「学びの部屋」(大船渡市・釜石市)	2,000,000
特定非営利活動法人 さくらネット	子どもたちを応援！ 地域や暮らしと向き合い、みんなで元気になるプログラム支援	1,600,000
特定非営利活動法人 3.11こども文庫	こども文庫『にじ』の運営とブックトーク、アートワークショップの実施	1,477,377
一般社団法人 Bridge for Fukushima	高校生向け次世代リーダー育成事業 ～PBL(プロジェクト型学習)を用いた人材育成～	1,670,000
一般社団法人 まなびの森	宮城県山元町の小中高生を対象とした学習支援活動	2,000,000
特定非営利活動法人 亙理いちごっこ	亙理こどもサポート事業	2,000,000

計19,328,337 円

今回の助成について

募集期間:平成28年11月18日～平成29年1月5日

助成金総額:23,000千円以内

応募数 :67件

採択事業数: 11件 東日本大震災対象 9件 熊本地震対象 2件

金額: 19,328,447円

選考委員会:助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ4名の選考委員(当財団理事1名と社外有識者3名)で組織する選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長からのコメント

2016年度の本助成テーマにおいては、東日本大震災によってとりわけ大きな被害をうけた東北3県(岩手・宮城・福島)の子どもたちの支援に加えて、2016年4月に発生した熊本地震で被害を受けた地域の子どもたちを支援する団体の活動に対して助成を行います。

東日本大震災震災発生から6年が経過しましたが、未だ復興は道半ばと言う状況です。地域ごとのさまざまな事情によって、復興の進捗にも差が広がっているのではないかと思います。福島では避難指示の解除による帰還も始まり、子どもの未来を見据えた新たな支援の必要性も出てきています。

年月が経過し、子どもを取り巻く環境や課題、国や自治体の施策が変化する中での被災地支援として、課題の捉え方、事業継続への見通し、活動の地域との関わりや影響力などを重視して選考を行いました。

熊本地域については、2016年5～6月に緊急助成を実施しました。その後、避難所の解消を経て、震災後2年目の活動助成となりますので、現フェーズの地域の現状や課題を捉えた活動であるかを重視した選考となりました。

被災地の支援については、復興のフェーズごとに求められる支援のあり方も変わってきますので、各地域で活動されている団体の皆さまの経験・知見を共有していくことも重要だと思っています。助成団体間での交流を深めつつ、現場に蓄積されている知見を社会に共有していけるような活動へのサポートも検討していきたいと考えています。

公益財団法人ベネッセこども基金
理事・選考委員長
耳塚寛明

【団体名】

特定非営利活動法人 Our Planet-TV

【URL】

<http://www.ourplanet-tv.org>

【申請事業名】

VRで遺す子どもたちの記憶と未来～小高中学に寄り添う映像記録の蓄積と作品化

【メッセージ】

2015年度に本助成をいただき「南相馬の子どもたちと記録映画をつくる」プロジェクトを進めてまいりました。本助成のおかげで、2013年から継続的に通っている南相馬市小高中学校に、より頻繁に訪れることが可能となり、映像で記録を続けるとともに、子どもたち、学校との関係性を深めることができました。心より感謝申し上げます。

小高中学は、もともとは大規模校でしたが、震災で警戒区域に指定されたため、多くの世帯が市外に避難し、震災前の3分の1程度の100人弱が、南相馬市鹿島区にある鹿島小学校の校庭に設置された仮設校舎で学んでいました。原発事故から7年目となる今年4月には、小高区にある元の校舎に帰還する予定です。新1年生の入学は大幅に減る見通しで、今後この学校が、継続できるかどうかは不透明です。

本プロジェクトでは、震災・原発事故で影響を受けながらも、前向きに暮らす子どもたちの日々を記録するとともに、共に映像制作を行うことで、子どもたちのエンパワメントにつなげることが狙いです。また、生徒や保護者は、震災後の一番辛い時期に過ごした仮校舎を心から大切に感じており、解体される前にバーチャルリアリティ（VR）技術を使って、校舎を記録し、オンライン上でプロジェクトを展開します。教師・子どもたちのインタビュー映像、授業や部活動の様子などを交えながら保存することで、推し進められる復興の片隅で忘れられがちな原発事故の記憶を次世代へと受け継いでいきたいと思っています。

【団体名】

特定非営利活動法人 アスイク

【URL】

<http://asuiku.org>

【申請事業名】

宮城県多賀城市における、食と学習をととした居場所・地域づくり

【メッセージ】

当団体の事業へ助成いただき、ありがとうございます。

私たちは2016年から仙台市の北側に隣接する多賀城市で、食を入り口にした居場所をつくってきました。参加者の多くは、東日本大震災で被災され、いまは災害公営住宅で生活されている子どもや保護者です。ひとり親のご家庭も多く、私たちのスタッフやボランティアも含めたさまざまな大人と食事を通して交流することは、子どもや保護者にとってちょっとした息抜きだったり、普段とは違う会話をする時間になっています。

さらに、何か困ったときに気軽に相談できる「見守りの場」としても、この居場所を運営していきたいと考えています。Webなどで活動状況のご報告もしてまいりますので、よろしければご確認ください。

【団体名】

yell！チャイルドマインダー熊本の会

【URL】

<https://www.facebook.com/Yellエール-1515125778706579/?fref=ts>

【申請事業名】

子育て応援Room

【メッセージ】

このたびは、私どもの事業にご理解・ご支援いただき、感謝申し上げます。

私たちは、チャイルドマインダー有資格者のネットワークです。チャイルドマインダーは、少人数保育のスペシャリストとして英国では国家資格とされています。

熊本地震以降、子育て中の親子を対象とし子どもの心のケアを中心に「救援物資配布」「全国からの絵本・おもちゃの募集と配布」「被災地や避難所での絵本の読み聞かせ」などを行ってまいりました。時間と共に避難所などが閉鎖していく中、遊ぶ場所をなくした就園前の親子でゆったり過ごせる場の重要性を感じ、子育て応援Roomとしての活動を開始いたしました。

毎回、茶話会形式で、おむつなし育児座談会、子育てカウンセラー相談、離乳食の会、親子遊びなどテーマを決め開催しています。子育て応援Roomでは、チャイルドマインダーが見守り託児を行いながら、親同士・子ども同士・子育て支援者と親子のつながりを作り、孤立しがちな子育てを長期的に支援していきたいと考えています。

4月で1年になる熊本地震。まだまだ不安を抱えている親子もいます。そのような親子が、この子育て応援Roomで、少しでも笑顔で過ごせ、元気になる活動を続けていきたいと思えます。

【団体名】

特定非営利活動法人 キッズドア

【URL】

<http://www.kidsdoor.net/index.html>

【申請事業名】

仙台市の困窮家庭の中高生を対象とした無料学習会と復興人材育成のためのプロジェクト学習の実施

【メッセージ】

仙台市内の母子家庭、生活保護家庭、就学援助家庭などは震災により直接的被害を受けたご家庭もある一方で、震災後の離職や転職などの結果収入が減ってしまい、いまだ回復しないというご家庭も多くあります。家庭環境が複雑で、保護者自身が課題を抱えている場合も多く、そのような場合、子どもは学校でも家庭でも孤立しがちです。将来へ大きな不安を抱えているものの、相談できる場がなく、将来に希望を持たないといった様子が多く見受けられます。

弊会では南三陸町の戸倉小学校、志津川中学校においても震災後から学習支援を継続していますが、6年が経ち人口流出が進む中で、子どもたちの主体性をより強化し復興人材を育てていくことが必要と感じています。

両者は、競争意識が低い・情報が少ない（視野が狭い）・自己肯定感が低い、といった点で共通しており、これらの課題を解決する打ち手としては、外発的動機付けよりも学年や地域を超えた交流から生まれる内発的動機付けこそ、子どもたちの主体性を強化する一手になるものだと考えます。

東日本大震災から5年がたち撤退した団体が多い中、東北での子ども支援活動は長期的に継続していく必要があると感じています。支援は沿岸部に集中していますが、仙台市内にも直接的・間接的に被害を受けたご家庭も多く、特に沿岸部から引っ越して来たご家庭は地域に馴染めず生活的にも精神的にも不安定との報告もあり、貧困の問題とも関わり合いが深いと言えます。不安を乗り越えるためには、自分で考え発信する力を装着し、数年後東北の未来を担い社会で活躍できる人材を育てていきたいと思えます。

【団体名】

一般社団法人 キッズ・メディア・ステーション

【URL】

kodomokisha.net

【申請事業名】

石巻日日こども新聞 | 東日本大震災を経験した子どもたちによる情報発信活動

【メッセージ】

「石巻日日こども新聞」は東日本大震災の経験から誕生した子どもたちのメディアです。災害による社会の混乱で大人が右往左往している時、「自分たちもなにかの力になりたい」と子どもたちはけなげに考えていました。子どもだからわかること、大人の目線では気がつかないこと、子どもたちが経験や気持ちを発信できる「メディア」が必要だ、と私たちは考えました。そこで、震災の経験と学びを伝え残すために、子どもたちの意見を社会に活かすために、2012年3月11日「石巻日日こども新聞」を創刊しました。それから5年。多くみなさまのご協力とご支援のもと、子どもたちは記者として地域内外、海外でも取材を行い、同世代の子どもたちと震災の経験を共有したり、発表したりする機会もありました。活躍の場が紙面を飛び出して展開しています。

災害の経験は時とともに風化します。発信しなければ、経験したものをすら忘れてしまうのです。私たちの経験が、世界中の誰かの命を救うかもしれない、そんな想いと使命をもって、これからも発信し続けます。「石巻日日こども新聞」をぜひ応援してください。

末筆ながら、公益財団法人ベネッセこども基金とその支援者のみなさまに心よりお礼を申し上げます。

【団体名】

一般社団法人 子どものエンパワメントいわて

【URL】

<http://www.epatch.jp/>

【申請事業名】

気仙地区「学びの部屋」（大船渡市・釜石市）

【メッセージ】

「学びの部屋」事業では、東日本大震災により被災した岩手県沿岸地域において、学校や地域の中に子どもたちが集う居場所、学習場所を継続して作ってきました。子どもたちが学習に集中できるよう大人がよりそう中で、子どもたち自身の力を信じ、意欲や学力が向上するよう継続的な支援をしています。

子どもたちが未来に向かって進んでいけるよう応援し続けていきます。

この度助成をいただいたことに深く感謝申し上げます。

【団体名】

特定非営利活動法人 さくらネット

【URL】

<http://npo-sakura.net/>

【申請事業名】

子どもたちを応援！地域や暮らしと向き合い、みんなで元気になるプログラム支援

【メッセージ】

この度はご支援いただき、ありがとうございます。

平成28年熊本地震以降、「心のケアと一体的に進める防災教育」をテーマとして、4町村・8小中学校への支援に取り組んできました。被災した子どもたちに寄り添うため、学校の先生や保護者の方と一緒に、安心感を高める心のケアと安全感を高める防災教育を一体的に進められるよう取り組んでいます。平成28年度は、当初の学校再開支援に引き続き、研修や話し合いを重ねた結果、“心のケア”に対する負担感が軽減されたと感じています。トラウマ反応と回復のプロセスへの理解、リラクゼーションの活用など、少しずつ、学校全体での理解が広がり、防災教育と一体的に進める可能性が見えてきました。

平成29年度は、地震や地震が起きた地域での暮らし、自分の心や身体の変化等に不安や恐怖ばかりを持つのではなく、子どもたちが災害時の安心や安全について学び、地域の良さを発見する機会をつくります。元気を取り戻し発信できるよう、応援を続けたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

【団体名】

特定非営利活動法人 3. 11こども文庫

【URL】

<http://www.311bunko.com/>

【申請事業名】

こども文庫『にじ』の運営とブックトーク、アートワークショップの実施

【メッセージ】

皆様、はじめまして。少しだけ、私たちの紹介をさせていただきます。

私たちは、東日本大震災後、絵本や画材を募集し、国内外から集まった児童書は15,000冊に達しました。震災直後は、福島県相馬市の避難所に絵本や画材を届け、絵画等のワークショップを実施していると、子どもたちが描いた絵は約300点になりました。その絵を「ふくしまそうまの子どものえがくたいせつな絵展」として、全国の支援団体にご協力いただきながら、全国各地で展覧会を実施いたしました。その様子は、子どもたちの絵とともに、「ふくしまの子どもたちが描く、あのとき、きょう、みらい」（徳間書店より刊行）でご覧いただけます。

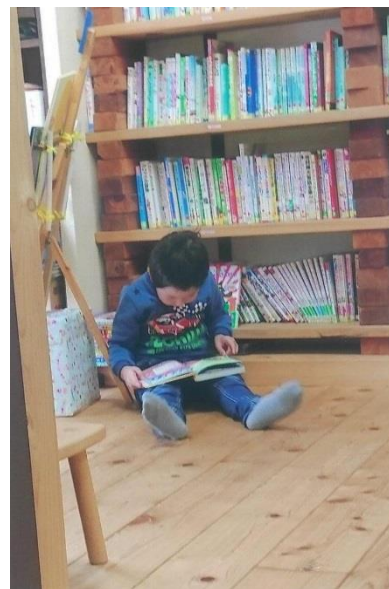
2012年9月、皆様のご寄付や助成金を原資に、福島県相馬市に念願のこども文庫“にじ”を設立しました。毎週3日の開館を行い、1ヶ月約100人の、地域の子どもたちやその保護者などの集う場となっています。元教員や児童相談員出身のスタッフが、『にじ』に滞在する子どもへの教育やその保護者の相談にのるなど、地域コミュニティの拠点のひとつとなっています。



今回、皆様にご支援いただき、下記の事業を実施させていただきます。

- ①この『にじ』の運営をさらに発展させて、多くの方に楽しんでいただくこと活動を継続します。
- ②5年目に入り今まで利用していた子ども達が活動を担うジュニアリーダーとなるべく、そしてまた利用者の皆様にとって、「私たちの文庫」となる様に、ブックトークやその他の活動を充実します。
- ③相馬市内全小学校に配置し巡回させている「こぼこ文庫」を継続します。
- ④アーティストによるワークショップを実施して、多様な自己充実の機会を設けます。

皆様のご支援、本当にありがとうございます。どうぞ、私たちの活動を今後とも見守っていただければ幸いです。



【団体名】

一般社団法人 Bridge for Fukushima

【URL】

<http://bridgeforfukushima.org/>

【申請事業名】

高校生向け次世代リーダー育成事業

～PBL（プロジェクト型学習）を用いた人材育成～

【メッセージ】

弊団体では、福島県の復興をより効果的にかつ効率的に進めるために、国内外の復興や街づくりで培った知見を活かしながら、現在は主に次世代人材育成事業を、PBL（プロジェクト型学習）を用いて行っております。

本事業では、PBLの手法を用いて、高校生たちが関心を持った復興課題・社会課題に対して、その課題の原因を考え、解決策の仮説を立て、事業を実施することで、高校生の能力強化を図るとともに、将来的に社会において活躍できる人材を被災地福島から排出することを目的としています。

本事業では、①プロジェクトを作りたいと考えている高校生に対するプロジェクトプランニング研修、②プロジェクトのタネになる情報を高校生同士で共有し、福島の現状を考える高校生大作戦会議、③高校生向けサードプレイス（コミュニティスペース）の運営、④福島県内各地の高校生へのメンタリングのアウトリーチを行います。

本事業のご支援をいただき、目標とする人材の輩出を目指します。お力添えのほどどうぞ宜しくお願い致します。

【団体名】

一般社団法人 まなびの森

【URL】

<http://www.s-1.jp>

【申請事業名】

宮城県山元町の小中高生を対象とした学習支援活動

【メッセージ】

この度は貴重なご支援の眼差しを、当団体の活動にお寄せいただきありがとうございます。

震災から6年が経過し、宮城県山元町では復旧復興後の新たな町が徐々に姿を現し始めています。平成28年度を通して仮設住宅から新たな住まいへの転居が進み、常磐線も開通しました。当団体が6年間継続してきた夜間の学習支援活動も、仮設住宅の集会所から公民館にその活動の場所を移しております。

「物理的な復旧復興が進む一方で子どもたちの心の復興はどのような変遷をたどっているだろうか？」被災地の現状に心を寄せる方々からよく伺う言葉です。震災直後と比較して全体的に平穏を取り戻しているのは確かです。同時に、短期間で解決することの困難な地域の課題が子どもたちの成長に影を落としていることも見過ごすことはできません。先週宮城県では公立高校の合格発表が行われ、深く関わってきた中学3年生たちの進路が決まりました。そして大きなリスクを伴う進路選択にチャレンジしにくい現状が被災地に横たわっていることを痛感しました。子どもたちが心の中に抱く希望を実現できるように、きめ細かな支援を今後も続けなければなりません。

今回賜った助成金は、主に学習支援活動の場で使用する教材類を整える財源として活用いたします。学習支援の内容を向上させるために大きな支えとなります。このような機会をいただけたことに心から感謝申し上げます。

【団体名】

特定非営利活動法人 巨理いちごっこ

【URL】

<http://ichigokko.org/>

【申請事業名】

巨理こどもサポート事業

【メッセージ】

【地域コミュニティは大きな家族】を理念とし、東日本大震災をきっかけに立ち上がりました。コミュニティ・カフェレストラン、いちごっこお話し隊（傾聴活動）、寺子屋いちごっこ（学習支援及び子どもたちの居場所づくり）を3本の柱に、そしてそれらNPO活動を下支えする製造事業活動を行ってきました。

立ち上げ時からの食することを通して交流することの大切さを継承・発信しています。地域内外をつなぐイベント等を実施し地域交流を深める中、社会教育の観点からも地域コミュニティ創出の重要性などを伝えています。全国から中高大学生たちが研修に訪れ、情報量の少ない宮城県南域における被災地域の発信源となって活動しています。地域内外の応援をいただきながら地域住民の居場所づくりを継続して行っています。子どもたちの学習サポートも6年間継続して行ってきました。被災世帯や、片親世帯、一般児童生徒が集まり勉強だけではなく、様々な経験を通して地域の中で育ててもらっています。

当方のこどもサポート事業において大きな柱となっているのは、東北大学学内サークル〈サークルいちごっこ〉。学生たちが自主的に5年前に立ち上げ、当方スタッフを支え、常に活動をサポートしてくれます（登録人数51名）。新年度からは週4回小中学生40名ほどが集まり、学習活動やコミュニティ活動に取り組んでいます。また、月2回のお食事会や、長期休暇を利用した勉強合宿及び体験学習を通して子どもたちの素晴らしい成長に元気をもらっています。地域の子どもたちを地域の住民みんなで見守ること、そこに被災地域が抱えるこどもの課題を解決していく糸口があると考えます。

地場産品の発信、被災地域での雇用の促進、地元高校・専門学校・支援学校等のインターンの受け入れを行ってきました。被災によって心身のダメージを受け就労困難な若者の社会復帰の場ともなっています。地場農産物を使用したアイスやジャムなどの製造発信することで、彼らの働く場とすることが出来ています。

貴助成をいただき、被災地域における子どもたちを見守り育てることが出来ること、心より感謝申し上げます。より確かな活動としていくことが出来るよう取り組んでまいります。